

令和5年度東京都立農業高等学校 全日制課程 学校経営報告

1 教育活動の目標と自己評価

(1)進路指導

【取組】

- ア 進路通信「進路Go!」を年間8号発行し、生徒の進路に対する意識を高めた。
- イ 「進路の手引き」(本校作成)をもとに、個別指導を徹底した。
- ウ 学年や専科との情報共有を図り、「専科との生徒進路希望情報交換会」、「1年4月ガイダンス・12月ガイダンス・3月働く先輩懇談会」、「2年4月ガイダンス・6月企業採用担当者による進路ガイダンス」を実施した。

【結果】

- ア 159名の卒業生のうち、大学・短期大学への進学が42名、専門学校への進学が66名、就職が41名(うち公務員0名)、その他が10名であった。昨年度より大学・短大進学者が6名減少した。
- イ 進学のうち主な大学の内訳は、東京農業大学9名、日本大学2名、北里大学1名、日本獣医生命科学大学1名、酪農学園大学1名、杉野服飾大学1名、文化学園大学2名、東京医療保健大学3名であり、卒業後、大学で専門性をさらに高めようとする生徒が一定数いる。公立大学への大学進学いなかった。
- ウ 就職は、第一回目の採用試験において、35名中34名が内定した。また、国家公務員はいなかった。

エ 進路状況の推移

年度	大学	短大	専門学校	就職・公務員	その他	卒業者数
R5	36名(23%)	6名(4%)	66名(42%)	41名(26%)0名	10名(6%)	159名(100%)
R4	40名(24%)	8名(5%)	66名(39%)	43名(26%)2名	11名(7%)	168名(100%)
R3	38名(23%)	2名(1%)	75名(45%)	40名(24%)0名	12名(7%)	167名(100%)
R2	27名(16%)	6名(4%)	78名(46%)	43名(27%)2名	13名(8%)	167名(100%)
R1	30名(18%)	3名(2%)	83名(48%)	48名(28%)2名	7名(4%)	171名(100%)
H30	27名(17%)	2名(1%)	67名(41%)	45名(32%)3名	14名(9%)	155名(100%)

(2)学習指導

【取組】

- ア 「学力スタンダード」については、各教科で生徒一人一人の学力を把握し、基礎学力の向上に努めた。
- イ 「技能スタンダード」の取組として、資格・検定の取得のための指導を行った。
- ウ 西部学校経営支援センター特別指定校の指定を受け、「教科間連携及び地域連携の強化による学びの充実」を図る取組を行い、2年間の集大成として研究成果報告会を実施し、研究集録を発行した。
- エ 言語能力向上と教科間連携の取組として、各科の代表者による合同課題研究発表会を実施した。
- オ 農業科において、高大連携事業、GAP教育、HACCP教育を推進した。
- カ 「定期考査採点・分析システム」を活用し、多くの教員が観点別評価に関わる採点負担の軽減を図り、生徒への効率的還元を促した。

【結果】

- ア 生徒による学校評価アンケートでは、普通科目の取組についてはR5:93%(R4:88%、R3:88%)、授業(実習)への取組についてはR5:95%(R4:94%R、R3:96%)で、生徒は真剣に取り組んでいると回答している。
- イ 日本農業技術検定2級にR5:8名(R4:13名、R3:12名)、3級72名に(R4:66名、R4:126名)が合格、アグリマイスター顕彰制度ゴールドにR5:2(R4:2名)、シルバーに10名(R4:11名)が認定された。
- ウ JETの活用により英語によるコミュニケーションを図る機会が増大した。
- エ 茶、ナシでJGAP維持のための審査を行った。

オ 農業三科は、東京農工大学との高大連携の取組として、大学教授、大学院生からの授業、大学農場での実習を年間通して実施した。

カ 「定期考査採点・分析システム」は、約 1/4 位の教員が活用し、前年度より増加した。

(3)生活指導

【取組】

ア 頭髪、身だしなみ等の生活検査の指導を、定期考査時に年間 5 回行った。

イ 7 月に交通安全教室、3 月にセーフティ教室を実施した。

ウ 通学時のヘルメットの着用を促してきた。

【結果】

ア 頭髪、身だしなみ等の指導については、組織的な対応を行うことにより、生徒の規範意識を向上させた。

イ 登下校における自転車事故はなかった。

ウ 一年生を中心に通学時のヘルメットの着用が微増した。

(4)特別活動・部活動

【取組】

ア 体育祭は、雨天のため中止。本番に近い予行練習において学年対抗で実施し、同学年同士の交流を図った。農高祭は、全定合同開催で、1 日目は、保護者、中学生、2 日目は保護者、中学生に加え 3 年振りに一般公開を行った。

イ 部活動では、野球部、バスケットボール部、バレーボール部、陸上同好会等が公式戦に出場した。

【結果】

ア 体育祭は、生徒は実行委員会を中心に前向きに取組み、充実感を得た。また、学年対抗にすることによって同学年同士の交流を深めることができた。

イ 農高祭は、2 日間で延べ 1,300 名が来場し、日頃の学習成果を発揮する機会を得た。

(5)健康づくり

【取組・結果】

ア 生命にかかわる病気、怪我、事件等はなかった。

イ 特別支援委員会を 15 回実施した。

(6)募集・広報活動、地域交流等

【取組・結果】

ア 授業見学会・学校見学会・学校説明会を、参加人数の制限を設けず、中学 2 年生・3 年生を対象として、6 月、7 月、8 月、9 月、10 月、12 月、1 月に実施した。また、体験入学を、参加人数を制限して 9 月、10 月に行った。授業見学会・学校見学会・学校説明会には中学生が 1027 名、体験入学には中学生 160 名の参加があった。

イ 「ケヤキ並木」を毎月発行した。ホームページの更新を 65 回、ツイッターは、140 回ツイートを行った。

ウ 食物科は、中学生親子料理教室と中学校家庭科教員向けの技術研修会を実施した。

オ 東京農工大学、府中市との連携を図ることにより、地域とともに歩む学校基盤を構築した。

(7)学校経営・組織体制

【取組】

ア 予算執行については、経営企画室と連携を図りながら、各教科・分掌の予算進行管理を行った。

イ 施設は築 50 年近くを経過しているため、老朽化が進んでおり、安全安心面での不安がある。

ウ 全教育活動から体罰等の根絶、いじめ防止に向けた取組を行った。

エ 月当たりの超過在勤時間が 45 時間を超える教職員を 0（ゼロ）にすることを目標にするなど、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進した。

オ 令和 3 年度から教育課程推進部を設置し、今年度より西部学校経営支援センター特別指定校の取組を推進した。

【結果】

ア 執行率は 100%、センター執行率は **43%** (R1:43%、R2 :42% R3:48% R4:43%) である。

イ 体罰防止月間等を活用して全教育活動から体罰等を根絶するための取組を行った。今年度も体罰はゼロである。

ウ いじめを防止するために、教員の指導力向上とスクールカウンセラーの活用等に努めた。

エ 年間で、超過在校時間が 60 時間を超える教員は 1 名であった。

オ 西部学校経営支援センター指定校の取組の中で、スクールマスコット『まゆ丸、通称：まゆちゃん』を作り、今後、校内生産物の商品ラベルや広報活動に活用した。

2 今年度の重点目標と数値

(1) 生徒の進路希望実現 進路希望決定率 90%以上

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
進路決定率	91%	96%	92%	93%	93%	94%

今年度の進路決定率は 95%であった。

(2) 学校満足度の向上 生徒の学校満足度 90%・保護者の学校満足度 90%

年 度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
生 徒	90%	91%	95%	92%	86%	90%
保護者	96%	97%	94%	90%	97%	95%

今年度：生徒の学校満足度は 90%、保護者の学校満足度は 95%である。生徒満足度 4 ポイント上昇した。

(3) 組織的な生活指導体制 身だしなみ違反生徒ゼロ、自転車事故ゼロ

年 度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
身だしなみ 違反生徒	90 名	173 名	10 名	10 名	14 名	12 名
自転車事故	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

定期考査中に身だしなみ（頭髪）指導をした。14 名の生徒が不十分であったが、生活指導部を中心に指導を継続した。自転車事故についてはゼロである。

(4) 広報・募集活動の推進 全学科の入選応募倍率：推薦 3.0 倍、一次 1.3 倍

ア 推薦による選抜 応募倍率推移

年 度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
農業科	2.37 倍	2.30 倍	1.90 倍	2.19 倍	2.14 倍	2.07 倍
家庭科	4.40 倍	3.15 倍	2.95 倍	2.70 倍	3.05 倍	3.35 倍

イ 学力検査に基づく選抜 応募倍率推移

年 度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
農業科	1.35 倍	1.24 倍	0.93 倍	1.09 倍	1.13 倍	1.59 倍
家庭科	1.74 倍	1.40 倍	1.16 倍	1.22 倍	1.24 倍	1.62 倍

今年度 推薦に基づく選抜 農業科は **2.07 倍**、家庭科は **3.35 倍**である。

学力検査に基づく選抜 農業科は **1.59 倍**、家庭科は **1.62 倍**である。

なお、中進対の倍率は、農業科は **1.39 倍**、家庭科は **1.43 倍**である。

農業科、家庭科とも例年になく、高倍率となった。

(5) 地域との連携事業の充実 地域連携事業実施回数 30 回

西部学校経営支援の特別指定校の取組もあり、地域連携活動がコロナウイルス感染症前の活動状況に回復してきた。

(実績 H28 : 30 回、H29 : 30 回、H30 : 30 回、R1 : 30 回、R2 : 20 回 R3 : 20 回 R4 25 回)

ア 都市園芸科：

- ・府中市環境対策事業(4 月～5 月) 府中市 P F S と連携して、市内の幼稚園、小学校、中学校へゴーヤ苗の配布(700 株)、近隣小学校 2 校とゴーヤカーテン作成のため、苗植栽。
- ・府中市郷土の森観光物産館『郷土の森 夏のフェスタ』、府中市『キテキテ府中マルシェ』に参加した。
- ・各種コンテストに参加し、フラワー&ガーデンショウ横浜 2023 ガーデンコンテストの作品が学生特別賞を、第 7 回高校生が描く「明日の農業コンテスト」で金賞を受賞した。

イ 緑地計画科

- ・府中市とウィーン市ヘルナルス区交流 30 周年記念事業としてケヤキの種子を提供した。
- ・国天然記念物馬場大門ケヤキ並木保護更新プロジェクトに関連し、「100 周年後の人達に贈る手紙」の企画を府中市の小学校・中学校の生徒と共にを行った。(3 月)
- ・ケヤキ並木の落ち葉から作られた腐葉土(10 m³)を文化庁の許可を得て、並木に戻した(6 月)
- ・名勝小金井(サクラ)100 周年行事に関し、玉川上水の堤に本校生徒による接ぎ木苗 6 本を名勝小金井(サクラ)として植樹した。(R6 年 2 月)

ウ 食品科学科

- ・山手調理製菓牛乳スマイルプロジェクトに参加し、牛乳の消費促進のための商品開発に取り組んだ。
- ・小金井市なかよし市民まつりで、生産品販売及び学校紹介を行った。
- ・都市園芸科と食品科学科の 4 名が早稲田大学理工学術院先進理工学部生命医科学科と連携して、「ダイズの根より分離される放線菌の研究」を行い、ジュニア農芸化学会 2024 にてポスター発表を行った。

エ 服飾科

- ・府中市『キテキテ府中マルシェ』に参加協力し、ファッションショーを実施した。
- ・各種コンテストに参加し。高校生デザインコンテスト 2023 (織田ファッション専門学校)、高校生ファッションデザインコンテスト(文化服装学院)、高校生デザインコンテスト(ヒコみづのジュエリーカレッジ)、日本制服デザインアワード(文化服装学院)で優秀賞などを受賞した。

オ 食物科

- ・各種コンテストに参加し、WASHOKU グランプリで決勝進出し、審査員特別賞を受賞した。江戸東京野菜料理コンクール、とかちマルシェ料理甲子園では決勝進出、食物アレルギー対応食料理コンテストでは上位入賞した。

3 今後の課題と対応策

(1) 進路指導

進路指導部と学年との連絡を密にするとともに、外部教材を活用したテストの結果等の共有化を図る。また、事務上のミスが起こらないよう手順を明確にして、複数人でのチェックを確実に実施する。大学・短期大学への進学者数が増加しているので、進学者希望者に対して指導を組織的に実施する。

(2) 学習指導

- ア 生徒が農業高校で身に付けるべき学力の共有化を図り、「都立高校学力スタンダード」に基づき、具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。
- イ 生徒の実態に応じた適切な宿題・課題等を課すとともに、令和 5 年度から導入した外部教材の有効活用を組織的に実施する。
- ウ 学力や進路希望に応じた資格取得等を促進する。

(3) 生活指導

- ア 身だしなみ、挨拶の励行、時間を守る、言葉遣いの指導を繰り返し行う。
- イ 落ち着いた学習環境の確立やルールやマナーの遵守等、規範意識の醸成につなげる指導を行う。
- ウ 薬物乱用防止、スマートフォン・携帯電話に係る犯罪防止等、生徒の健全育成に向けたセーフティ教室を実施し、犯罪に巻き込まれない指導を繰り返し行う。
- エ 生活指導方針について、教職員の共通理解を深め、授業、学校行事等のあらゆる場面で統一的な指導を行う。
- オ 部活動の加入率と定着率を上げ、自己実現の場としての部活動を一層魅力あるものにする。

(4) 特別活動

特別活動では、ホームルーム活動の大切さを全教職員が共有し、生徒が主体的に考え、互いに話し合い協力し合う絶好の場となるよう、指導計画・指導方法をより工夫していく。

(5) 防災教育

生徒が地震や火災等の災害から自らの命を守る方法を身に付け、状況に応じて的確な判断や行動ができるよう防災教育を引き続き推進し、災害等に備えた学校の防災危機管理体制を充実させる。

(6) 募集・広報活動

- ア ホームページとX(旧 Twitter)を適宜更新することにより、教育活動を発信していく。
- イ 授業見学会、学校見学会や学校説明会、体験入学等の実施内容等を充実させる。
- ウ 専門学科の強みを生かした諸活動を関係機関等と連携しながら推進する。
- オ 教員による中学校訪問や塾訪問、夏休みの日直による学校案内を充実させる。

(7) 健康づくり

- ア 生徒が快適な条件の下で学習できるように環境整備に努める。
- イ 生徒の体力向上に向けた取組を推進する。
- ウ 教育相談体制を充実させるために、スクールカウンセラーを有効に活用する。また、特別支援教育コーディネーターを中心に、支援を必要とする生徒に対する具体的な対応策を講じる。

(8) 学校経営・組織体制

- ア 経営企画室の学校経営参画を推進し、教育職員との連携、協力体制をさらに深める。
- イ 教育効果を一層高めるために、各分掌間の連携を強固にする